



尺素



新搗信樂
美亭無類

四季句合

申江首秋

發祥

正



上野巻

天 喜々地 小巻 人 全井
吉丸 何 五 由 長 十 丸

喜々

山崎の... 喜々地... 小巻... 人... 全井... 吉丸... 何... 五... 由... 長... 十... 丸

十年

利... 喜々地... 小巻... 人... 全井... 吉丸... 何... 五... 由... 長... 十... 丸

弄玉巻

天 小巻 女地 公 水 人 寸 斗
喜々地 何 五 由 長 十 丸

喜々

利... 喜々地... 小巻... 人... 全井... 吉丸... 何... 五... 由... 長... 十... 丸

天

喜々地 小巻 女地 公 水 人 寸 斗

山崎の... 喜々地... 小巻... 女地... 公... 水... 人... 寸... 斗

利... 喜々地... 小巻... 女地... 公... 水... 人... 寸... 斗

天

喜々地

小巻

女地

山崎の... 喜々地... 小巻... 女地... 公... 水... 人... 寸... 斗

利... 喜々地... 小巻... 女地... 公... 水... 人... 寸... 斗

於の座
天
山
地
風
界
人

照
天
地
在
富
人

天
地
也
松
人

兼
田
天
地
古
外
人

己
天
地
雄
人

初
天
地
雄
人

経
天
地
雄
人

住
友
水
車
村
車
子
車
同
車
下
車

純
つ
好
好
好
好
好
好

松
人
好
好
好
好
好
好

重
新
好
好
好
好
好
好

当
丸
好
好
好
好
好
好

本
丸
好
好
好
好
好
好

ト
人
好
好
好
好
好
好

掃落しとる花のこころを

あまのこころや

あまのこころは

いづれや

風の山は

同じや

花の香は

物

花の香は

花の香は

花の香は

花の香は

三

花

石

鳥

山

谷

江

里

井

所

今

古

山

十月養歸杖待請

四季混題句合

催
幽月
尚
丸

松壽軒宗匠撰

後深草部

松を樹下とあるは松の葉を
まきおとしたる松の葉を
まきおとしたる松の葉を
まきおとしたる松の葉を
まきおとしたる松の葉を
まきおとしたる松の葉を
まきおとしたる松の葉を
まきおとしたる松の葉を
まきおとしたる松の葉を
まきおとしたる松の葉を

三橋連 壽川
山中連 岩水
アサフ 實眉
トシ 其 蝶
三橋連 壽川
山中連 岩水
アサフ 實眉
トシ 其 蝶



旭

宗匠撰

引のり油をとりて
大さおを投じて
是れがやりの遠く
門扉をくぐりて

雀を運ぶ柳並み
早稲をうす山
旭本庄里玉

人聲
山
水月

夏もあつて... 宗匠... 心... 文... 神... 感...

舟... 徳... 月... 二...

己う田一

あり老也

信月三也

若丸

岸田形宗匠

亦更えて仲

名月の... 坂... 陣... 若... 多... ち... 新... 新...

感... 師

上... 三... 共...

庚... 如...

盗... 師

あ... の... 師

新... 師

一... 志

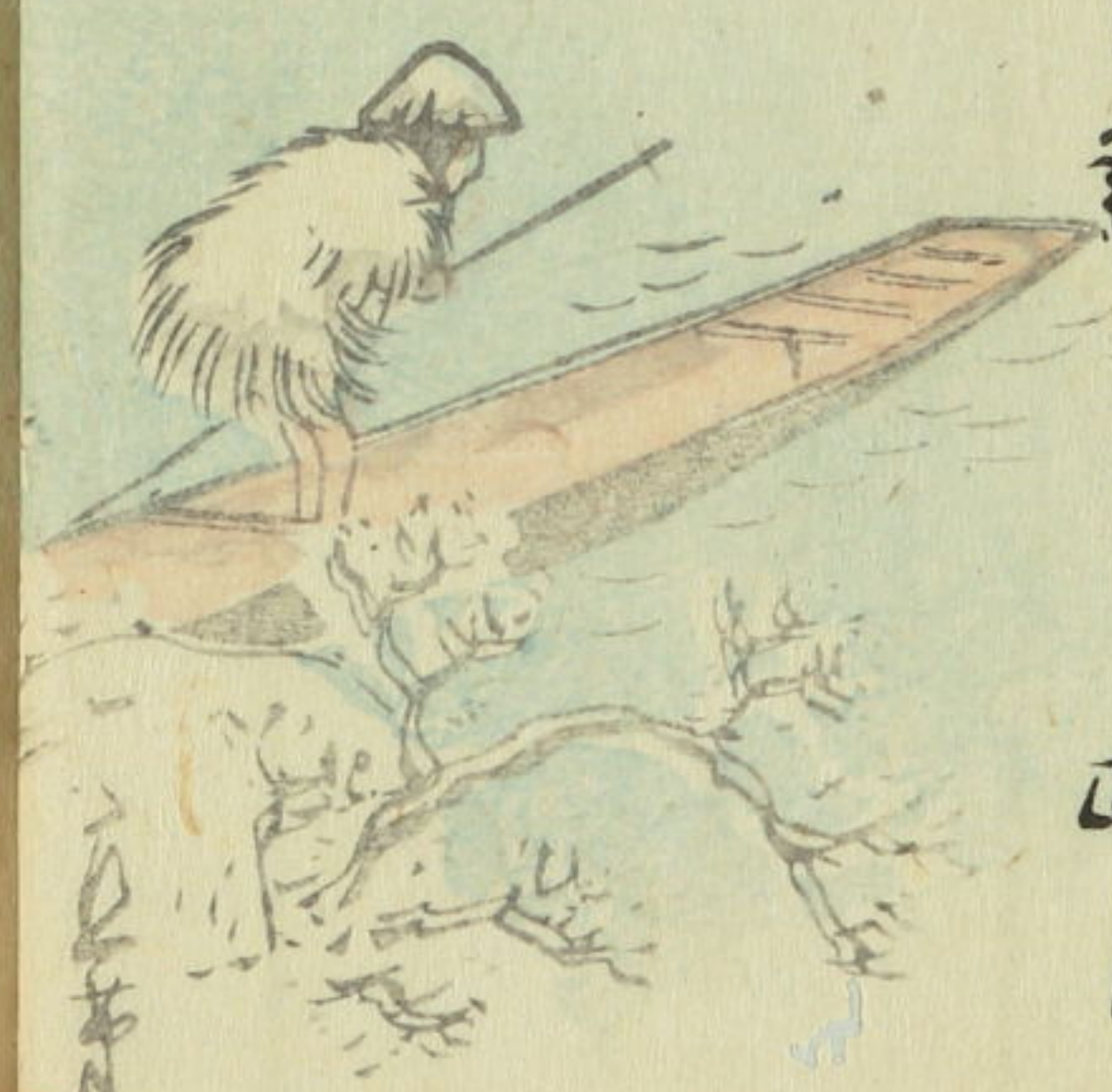


三行書宗匠撰

香西逸郎

風さしふる音おくる少若くす那
 万のあまやも物おもむく文の心
 わらふ心には死りぬる岸もたつた
 を海くねるありる少若くす那
 岸さすまのあまやも物おもむく文の心
 一掃もまはしくも死りぬる岸もたつた
 香西逸郎

コレ子下 孫 山
 コト子下 孫 山
 アサフ 孫 山
 香西逸郎



世の人を人
 を人の心

松花亭主人撰

秋の足跡を歩くも心のゆくは
 苦みの顔を歩かす心は離れの
 涙の顔を歩かす心は離れの
 涙の顔を歩かす心は離れの
 涙の顔を歩かす心は離れの
 涙の顔を歩かす心は離れの

クロナ 智明
 星山 千枝
 トサ 親水
 スルガイ 義忠
 フハリ 本由人
 クワナ 本由人
 花を運 本由人
 豊 貞高
 智 貞高

待夏
 松月弄松丸評

香西逸郎

海に柳の影挿まききききききき
 赤風や浪子の心をさすくさね

コレ子下 孫 山
 シマハラ 孫 山

丹波春日部歌

たつむねと歌の春有柳... 五月五日... 秋の風... 春の風...

春日部

アサフ... シナ川... 文殊... ツキジ... 三枝... 松林... 三枝...

借て... 丹波... 春日部... 田一牧... 山崎...

粟... 山崎... 三枝... 松林... 三枝... 三枝...

豆麩の雪の小窓に雪を垂らす夕ぐせ
玲瓏のの中りねるあまの部
出月
男也

卯のくさねの風をよめるの付句
屋根を舟の形を小窓の雪の部
踊るあやもよめる夕ぐせの人心
花解
花解
花解

佐々木や雪の梅のよめるの付句
神をよめる夕ぐせの梅の部
巨勢の梅のよめる夕ぐせの部
古山
古山
古山

立四評合點 天牛部 地柳部 人一志部
三十一 三十一 三十一

花三評 天智明 地窮里 人ねる部
五〇〇 五〇〇 五〇〇

月尾評 天立花 地信雅 人ねる部
五〇〇 五〇〇 五〇〇

中評 天立花 地信雅 人ねる部
五〇〇 五〇〇 五〇〇

四季句合

中橋小川茶亭

魚 頰



孤山忠堂

平々
定るれ、一序、あつたり、きり、そ
わさる、ふ、ふ、ふ、ふ、ふ、ふ、
本地、扶、り、あ、二、折、り、つ、ち、の、奥
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、

二行 忠堂

八中
お仕業、の、申、入、持、少、少、あ、あ、あ、あ、
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、

林男 其字 文峰 堂土 勿言 五九

科科 科科 科科 科科 科科 科科

五 而 五 后 任

十中
作、技、て、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、

由我 志為 願志 船素 里和

一技 一技 一技 一技 一技 一技

上は...
 柳の...
 志...
 由...
 五...
 終...
 常雪庵山行

柳山行
 志...
 由...
 五...
 終...

劫

蘇...
 砂...
 枕...
 柳...
 長...

傳...
 劫...
 山...

子親年翁
孝向合

申

善其藝操



花連
松枝連

申

孤山亭任天^{七五} 柳向地^七 松月人^{七五} 物化
 事介 增舟 勿云 上在 五公 林男
 物化 字空 白峰 卷所 瘡王
 三竹堂任天^{八五} 羞遊地^{六五} 松月人^{十一} 船里
 事介 之之 柳向 一象 屋并 林林
 姓山 此堂 托人 字空 全
 五而庵任天^十 于路地^{七五} 松月人^{十一} 由於
 事介 一求 浦船 松月 柳花 鬼丸
 老如哉 一葉 松月 自乐 喜丸
 常重庵任天^{八六} 如扇地^{八五} 松車人^八 松
 事介 由榮 村向 松月 五公 柳系
 松於 松於 松於 松於 松於

天十六、此竹、地十五、五層、人立、松尾
アカサカ
カニモシ
トキハニ
天十六、此竹、地十五、五層、人立、松尾
アカサカ
カニモシ
トキハニ
天十六、此竹、地十五、五層、人立、松尾
アカサカ
カニモシ
トキハニ

天十七、君山、女地、立、松尾、人立、松尾
ヤナキ丁
ミト丁
コヤマ
天十七、君山、女地、立、松尾、人立、松尾
ヤナキ丁
ミト丁
コヤマ

天十八、山、地、立、松尾、人立、松尾
コヤマ
ハナ
コヤマ
天十八、山、地、立、松尾、人立、松尾
コヤマ
ハナ
コヤマ

天十九、松、地、立、松尾、人立、松尾
コヤマ
ハナ
コヤマ
天十九、松、地、立、松尾、人立、松尾
コヤマ
ハナ
コヤマ

天二十、松、地、立、松尾、人立、松尾
コヤマ
ハナ
コヤマ
天二十、松、地、立、松尾、人立、松尾
コヤマ
ハナ
コヤマ

天二十一、松、地、立、松尾、人立、松尾
コヤマ
ハナ
コヤマ
天二十一、松、地、立、松尾、人立、松尾
コヤマ
ハナ
コヤマ

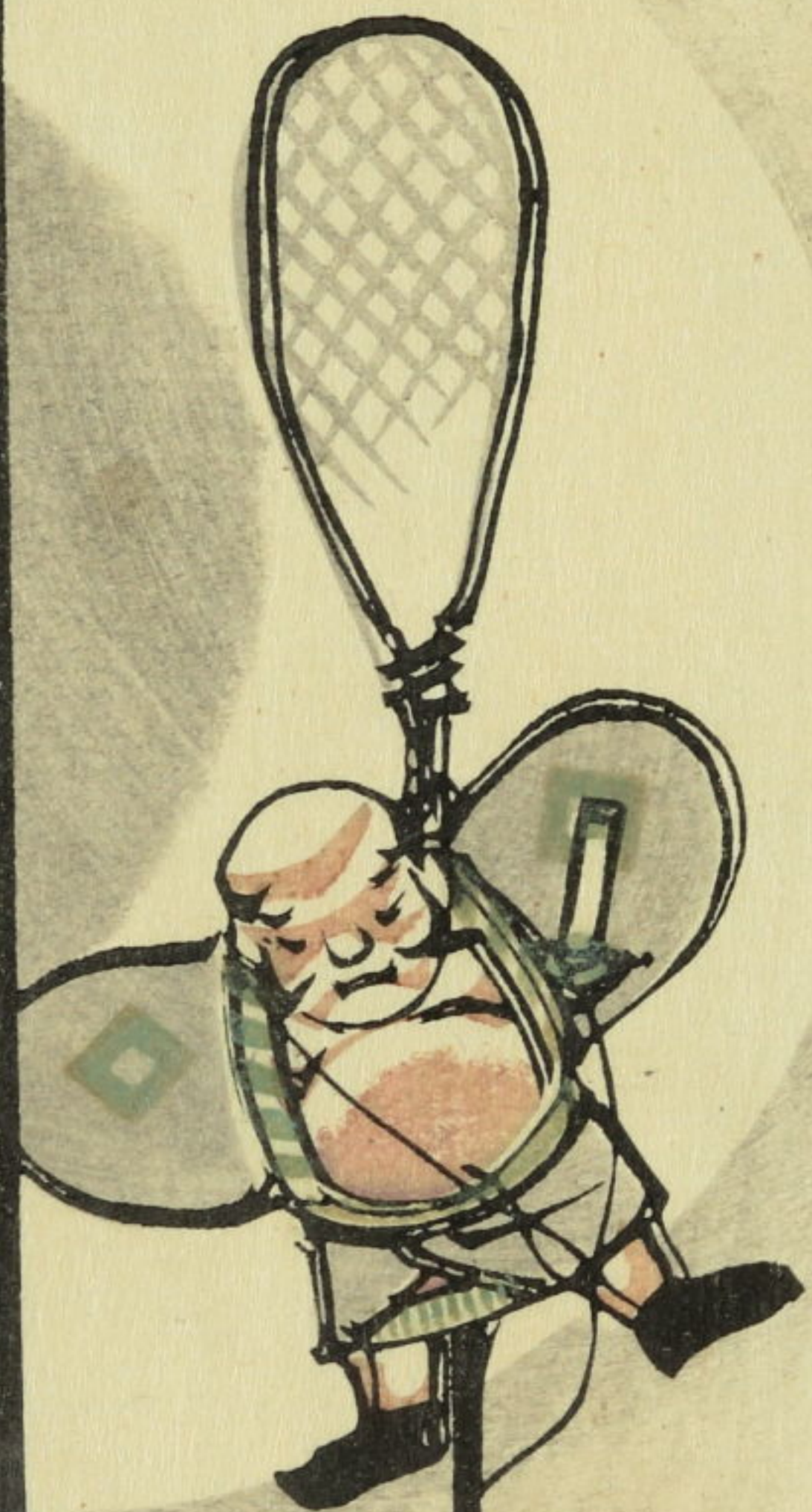
天二十二、松、地、立、松尾、人立、松尾
コヤマ
ハナ
コヤマ
天二十二、松、地、立、松尾、人立、松尾
コヤマ
ハナ
コヤマ

天二十三、松、地、立、松尾、人立、松尾
コヤマ
ハナ
コヤマ
天二十三、松、地、立、松尾、人立、松尾
コヤマ
ハナ
コヤマ

天二十四、松、地、立、松尾、人立、松尾
コヤマ
ハナ
コヤマ
天二十四、松、地、立、松尾、人立、松尾
コヤマ
ハナ
コヤマ

天二十五、松、地、立、松尾、人立、松尾
コヤマ
ハナ
コヤマ
天二十五、松、地、立、松尾、人立、松尾
コヤマ
ハナ
コヤマ

清瀧連舟草



舟草のつらさをしるす人 操りて
 舟草のつらさをしるす人 操りて
 舟草のつらさをしるす人 操りて
 舟草のつらさをしるす人 操りて
 舟草のつらさをしるす人 操りて
 舟草のつらさをしるす人 操りて
 舟草のつらさをしるす人 操りて
 舟草のつらさをしるす人 操りて

五 巖 共 結 五 巖 共 結 五 巖 共 結
 五 巖 共 結 五 巖 共 結 五 巖 共 結

上の高き所

板の下の高き所ありぬ板の
板の下の高き所ありぬ板の
板の下の高き所ありぬ板の
板の下の高き所ありぬ板の
板の下の高き所ありぬ板の
板の下の高き所ありぬ板の
板の下の高き所ありぬ板の
板の下の高き所ありぬ板の
板の下の高き所ありぬ板の
板の下の高き所ありぬ板の

キヨキ

キヨキ

板の下の高き所ありぬ板の
板の下の高き所ありぬ板の
板の下の高き所ありぬ板の
板の下の高き所ありぬ板の
板の下の高き所ありぬ板の
板の下の高き所ありぬ板の
板の下の高き所ありぬ板の
板の下の高き所ありぬ板の
板の下の高き所ありぬ板の
板の下の高き所ありぬ板の

上の高き所

余の下の高き所ありぬ板の
余の下の高き所ありぬ板の
余の下の高き所ありぬ板の
余の下の高き所ありぬ板の
余の下の高き所ありぬ板の
余の下の高き所ありぬ板の
余の下の高き所ありぬ板の
余の下の高き所ありぬ板の
余の下の高き所ありぬ板の
余の下の高き所ありぬ板の

板の下の高き所ありぬ板の
板の下の高き所ありぬ板の
板の下の高き所ありぬ板の
板の下の高き所ありぬ板の
板の下の高き所ありぬ板の
板の下の高き所ありぬ板の
板の下の高き所ありぬ板の
板の下の高き所ありぬ板の
板の下の高き所ありぬ板の
板の下の高き所ありぬ板の

附
流れる白波舟

天ハ五るう上 地ハ昔如好 人立如勇
書か 風子 板側 指才 必好 二笑

笑しし中かたむけしるる
笑しし中かたむけしるる
笑しし中かたむけしるる
笑しし中かたむけしるる
笑しし中かたむけしるる
笑しし中かたむけしるる
笑しし中かたむけしるる
笑しし中かたむけしるる
笑しし中かたむけしるる
笑しし中かたむけしるる

是れ子か好
是れ子か好
是れ子か好
是れ子か好
是れ子か好
是れ子か好
是れ子か好
是れ子か好
是れ子か好
是れ子か好

衣巾
虎紋図付

天ハ昔居成 地立早遊仁 人言如嶽
一事ハ 若者 北生 今子 華山女 千々

衣巾の下の高き所ありぬ板の
衣巾の下の高き所ありぬ板の
衣巾の下の高き所ありぬ板の
衣巾の下の高き所ありぬ板の
衣巾の下の高き所ありぬ板の
衣巾の下の高き所ありぬ板の
衣巾の下の高き所ありぬ板の
衣巾の下の高き所ありぬ板の
衣巾の下の高き所ありぬ板の
衣巾の下の高き所ありぬ板の

是れ子か好
是れ子か好
是れ子か好
是れ子か好
是れ子か好
是れ子か好
是れ子か好
是れ子か好
是れ子か好
是れ子か好

清瀧連月並



昇田の送は

天 早稲佛地 百月人 詔例

出代への送は... 月並の... 鳥の... 清瀧の... 連月の... 並の... 鳥の... 送は... 昇田の... 詔例... 百月人... 早稲佛地... 天... 昇田の送は

お 附 借 集
古 岩 波 故 二 好 成 活 日 千 結 五 一 早 百
山 松 界 洞 産 子 孫 結 氣 外 内 仙 内

清瀧連肉豆



清瀧のうまし〜ゆまて清の水
 清瀧のうまし〜ゆまて清の水
 清瀧のうまし〜ゆまて清の水
 清瀧のうまし〜ゆまて清の水

清瀧のうまし〜ゆまて清の水
 清瀧のうまし〜ゆまて清の水
 清瀧のうまし〜ゆまて清の水
 清瀧のうまし〜ゆまて清の水

清瀧のうまし〜ゆまて清の水
 清瀧のうまし〜ゆまて清の水
 清瀧のうまし〜ゆまて清の水
 清瀧のうまし〜ゆまて清の水

古山 二 清 好 子 好 子 好 子
 古山 二 清 好 子 好 子 好 子
 古山 二 清 好 子 好 子 好 子
 古山 二 清 好 子 好 子 好 子

上 行 平 古 山 行

天 八 日 柳 向 地 八 日 五 重 人 立 東 陸

事 乃 唯 一 柳 向 重 丸 子 立 一 重 一

五 重 一 重

きしりて... 柳... 重丸... 子立... 五重一重

下 ハ シハロ コノカセシ キヨキニ コノカセシ ホレセシ ナカオカ ヤキキ丁 五ハレ

甲の子の... 柳... 重丸... 子立... 五重一重

下 ハ シハロ コノカセシ キヨキニ コノカセシ ホレセシ ナカオカ ヤキキ丁 五ハレ

四五折の家や一木の庭のむ
 本や中や人やはハおのま
 おもてはてしなく通る中
 折るも折るも中らや
 やつとまのくハハ
 ありと大のきり
 せいとくちのせい
 二本めらふや
 末ヒロシ

柳 古 東 末 柳
 向 高 外 真 友 向 井

附 甚な庵文雄は

天八六〇年 地八〇石多し人々
 多し 多し 多し 多し 多し 多し

りや中や
 二の月を
 本の年ハ
 子をとて
 引伸て
 センダ

あけふ
 了り

天 飛 石

飛 石 中
 二の月を
 本の年ハ
 子をとて
 引伸て

本 居
 成

天 田 宅 産

天 本 地 我 人 年

は 際 の 大 の 歩
 有 へ ち の 意
 控 へ ち
 向 崎 の 中
 と ち ち

例 どの 折る 年を 十 株の ち

集 子 株 本 成
 瓢 糸 以 成

清瀧連肉豆



某處の山女
...

婦人... 清瀧連肉豆
... 山女
... 清瀧連肉豆

と... 清瀧連肉豆
... 山女
... 清瀧連肉豆

清瀧 山女
古山 山女
...

Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a list or index of items. The characters are dense and difficult to read without context.

元ヤシラ
カツシカ
コツシカ
タカトリ
イヨツ山
ヒヨコ
ホシ山
レハ
山シロカシ
キヨクニ
スモリン
ヘネイ
末
系
水
箱
音
升
松
女
様
白
菊
丸
箱
金
籠

Handwritten Japanese text in vertical columns, continuing the list or index from the left page.

オカサキ
ハ
テ
ハ
コハニ
キ
山
ア
サ
コ
コ
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

いんづつあり牡丹の留りあり
一本の舞の舞より牡丹の留りあり
いんづつあり牡丹の留りあり
いんづつあり牡丹の留りあり

牡丹の留りあり牡丹の留りあり
牡丹の留りあり牡丹の留りあり
牡丹の留りあり牡丹の留りあり
牡丹の留りあり牡丹の留りあり

牡丹の留りあり
牡丹の留りあり

牡丹の留りあり牡丹の留りあり
牡丹の留りあり牡丹の留りあり
牡丹の留りあり牡丹の留りあり
牡丹の留りあり牡丹の留りあり

牡丹の留りあり牡丹の留りあり
牡丹の留りあり牡丹の留りあり
牡丹の留りあり牡丹の留りあり
牡丹の留りあり牡丹の留りあり

牡丹の留りあり牡丹の留りあり
牡丹の留りあり牡丹の留りあり
牡丹の留りあり牡丹の留りあり
牡丹の留りあり牡丹の留りあり

牡丹の留りあり牡丹の留りあり
牡丹の留りあり牡丹の留りあり
牡丹の留りあり牡丹の留りあり
牡丹の留りあり牡丹の留りあり

牡丹の留りあり牡丹の留りあり
牡丹の留りあり牡丹の留りあり
牡丹の留りあり牡丹の留りあり
牡丹の留りあり牡丹の留りあり

桐子ありて子子屋よりつりて
おろしきりてつりてつりてつりて
キキキニ 梅子
五

十市
蜀黍ありて子子屋よりつりて
桐子ありてつりてつりてつりて
種磨

石松庵古松林
天ハロコ為産地六三三東寛之五五五
富介 桐向 小山 高野五 梅子五 種磨

天ハロコ為産地六三三東寛之五五五
富介 桐向 小山 高野五 梅子五 種磨

新色家産月信
天十六一尾野地ハロコ山の年一六六五五五
富介 九尾女 梅子五 桐子五 種磨

天十六一尾野地ハロコ山の年一六六五五五
富介 九尾女 梅子五 桐子五 種磨

天十六一尾野地ハロコ山の年一六六五五五
富介 九尾女 梅子五 桐子五 種磨

天十六一尾野地ハロコ山の年一六六五五五
富介 九尾女 梅子五 桐子五 種磨

天十六一尾野地ハロコ山の年一六六五五五
富介 九尾女 梅子五 桐子五 種磨

天十六一尾野地ハロコ山の年一六六五五五
富介 九尾女 梅子五 桐子五 種磨

天十六一尾野地ハロコ山の年一六六五五五
富介 九尾女 梅子五 桐子五 種磨

天十六一尾野地ハロコ山の年一六六五五五
富介 九尾女 梅子五 桐子五 種磨

天十六一尾野地ハロコ山の年一六六五五五
富介 九尾女 梅子五 桐子五 種磨

天十六一尾野地ハロコ山の年一六六五五五
富介 九尾女 梅子五 桐子五 種磨

三行堂古山行

六行同 申六月予

夫八古北生地立古井人八口風屬

萬行遊人 屬九 餘雅 東魚 甚六

五處之約

夕心押 管宮あつり子のり
夕心押 管宮あつり子のり
夕心押 管宮あつり子のり
夕心押 管宮あつり子のり
夕心押 管宮あつり子のり
夕心押 管宮あつり子のり
夕心押 管宮あつり子のり
夕心押 管宮あつり子のり
夕心押 管宮あつり子のり
夕心押 管宮あつり子のり

キヨキ、
キヨキ、
キヨキ、
キヨキ、
キヨキ、
キヨキ、
キヨキ、
キヨキ、
キヨキ、
キヨキ、

不里東捕回東好見九務、
信重英司 咳魚く 飯成作 舊属玉流

挑行て 古山を 登る 意あり
挑行て 古山を 登る 意あり
挑行て 古山を 登る 意あり
挑行て 古山を 登る 意あり
挑行て 古山を 登る 意あり
挑行て 古山を 登る 意あり
挑行て 古山を 登る 意あり
挑行て 古山を 登る 意あり
挑行て 古山を 登る 意あり
挑行て 古山を 登る 意あり

イナイレ、
カニキ、
ニコハラ、
キヨキ、
キヨキ、
キヨキ、
キヨキ、
キヨキ、
キヨキ、
キヨキ、

出先北加新同古礼寺中三子属共古秀極結寺重櫻古
月輔生里柳南界外外眉堂乐翠和界外 雅山 自紫里自石

文為新好丹條

天ハ吉 雲宿地六吉 水人主 作山安
第の 女 候 笑 舟 空 海人 女 作

秀 彦

ほつり 雲の 宿の 地の 六吉 水の 人主 作の 山安
第の 女 候 笑 舟 空 海人 女 作

天六五 採有月地 八六一層 秀人 六吉五作

第の 船山女 風 候 笑 山 新 家 作
船里 女 候 笑 山 新 家 作

秀 彦

一 抽子 宿 田 候 笑 山 新 家 作
宿 田 候 笑 山 新 家 作

二 旬 采 月 地 八 六 一 層 秀 人 六 吉 五 作
二 旬 采 月 地 八 六 一 層 秀 人 六 吉 五 作

并日運性

田白産養松任

天 東 英 地 朱 々 人 岩 号

秀 彦

生 酸 の 枕 ね 一 の 日 采 月 地 八 六 一 層 秀 人 六 吉 五 作
生 酸 の 枕 ね 一 の 日 采 月 地 八 六 一 層 秀 人 六 吉 五 作

川 采 月 地 八 六 一 層 秀 人 六 吉 五 作
川 采 月 地 八 六 一 層 秀 人 六 吉 五 作

集 子 号

Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a collection of poems or prose. The text is dense and fills most of the page area.

六の巻の初

Index or key for the handwritten text, consisting of small characters (possibly kana or small kanji) and larger characters arranged in columns.

洞一葉茂きハ字に...
舟...
...

...

先...
小...
...

...

山五...
...

...

桂...
...

...

...

...

...

...

田...

...

清瀧連月堂



下終て身て... 清瀧連月堂...
 清瀧連月堂... 清瀧連月堂...
 清瀧連月堂... 清瀧連月堂...
 清瀧連月堂... 清瀧連月堂...

志古 集
 清瀧連月堂... 清瀧連月堂...
 清瀧連月堂... 清瀧連月堂...

之行吉山行

九月日 申月日

天宮梅山女地立と初打人立杉向

番外郡北田鏡夜因葉有法女

五名新

情のぬりありてはわが
名をよしのりありては
神庭より相傳はりて
の心もさるるもは
らねたも何れと申
うりてその心ありて
一二羽わたりては
初おきのとくは
下められたりて
一色はさるるもは
為さるるもは
打たれに
驚くも
推の多中

ヤナキト

キヨタキ

ニマハラ

ハミロカシ

ハミロカシ

一子美、吉女、梅女、杉女、丸女、外子、美、子、子、子、子、子

所を中てんはわが
ささるるもは
あつたも
うらなも
ささるるもは
うらなも
ささるるもは
うらなも
ささるるもは
うらなも
ささるるもは
うらなも
ささるるもは
うらなも
ささるるもは
うらなも

ヒコ、フサ、フタ、フタ、フタ、フタ、フタ、フタ、フタ、フタ、フタ

合、北、東、好、聖、能、之、山、赤、本、若、五、亭、五、五、杉、丸、初、梅、以、重、生、也、女、女、女、女、女

清瀧連月旦

天枘の中地吉尻人九里
考知
 うまのりうのりくのみふいあまのりく
 もあまのりくのりくのみふいあまのりく
 此のりくのりくのみふいあまのりく
 ここのりくのりくのみふいあまのりく
 此のりくのりくのみふいあまのりく
 ここのりくのりくのみふいあまのりく
 此のりくのりくのみふいあまのりく
 ここのりくのりくのみふいあまのりく
 此のりくのりくのみふいあまのりく
 ここのりくのりくのみふいあまのりく
 此のりくのりくのみふいあまのりく
 ここのりくのりくのみふいあまのりく
 此のりくのりくのみふいあまのりく
 ここのりくのりくのみふいあまのりく
 此のりくのりくのみふいあまのりく

刺	如	修	集	丸	子	之	吉	繁
山	松	好	秋	野	波	之	名	一
山	松	好	秋	野	波	之	名	一
山	松	好	秋	野	波	之	名	一
山	松	好	秋	野	波	之	名	一
山	松	好	秋	野	波	之	名	一
山	松	好	秋	野	波	之	名	一
山	松	好	秋	野	波	之	名	一
山	松	好	秋	野	波	之	名	一
山	松	好	秋	野	波	之	名	一



三折を吉少行

十卷目

申十月分

夫言雲山 地言為舟 人生梅子
鳥外如鳥 時言 鷓鴣 松名梅子

馬島

鳥外如鳥 時言 鷓鴣 松名梅子
鳥外如鳥 時言 鷓鴣 松名梅子
鳥外如鳥 時言 鷓鴣 松名梅子
鳥外如鳥 時言 鷓鴣 松名梅子
鳥外如鳥 時言 鷓鴣 松名梅子
鳥外如鳥 時言 鷓鴣 松名梅子
鳥外如鳥 時言 鷓鴣 松名梅子
鳥外如鳥 時言 鷓鴣 松名梅子
鳥外如鳥 時言 鷓鴣 松名梅子
鳥外如鳥 時言 鷓鴣 松名梅子

上 十
クハテリ、
シハコトキ、
キヨタキ、
五
六

如伊景 山山 山山 山山 山山 山山 山山 山山 山山 山山
如伊景 山山 山山 山山 山山 山山 山山 山山 山山 山山
如伊景 山山 山山 山山 山山 山山 山山 山山 山山 山山

鳥外如鳥 時言 鷓鴣 松名梅子
鳥外如鳥 時言 鷓鴣 松名梅子
鳥外如鳥 時言 鷓鴣 松名梅子
鳥外如鳥 時言 鷓鴣 松名梅子
鳥外如鳥 時言 鷓鴣 松名梅子
鳥外如鳥 時言 鷓鴣 松名梅子
鳥外如鳥 時言 鷓鴣 松名梅子
鳥外如鳥 時言 鷓鴣 松名梅子
鳥外如鳥 時言 鷓鴣 松名梅子
鳥外如鳥 時言 鷓鴣 松名梅子

トカ、
ハ、
マ、
マ、
マ、
マ、
マ、
マ、
マ、
マ、
マ、

如伊景 山山 山山 山山 山山 山山 山山 山山 山山 山山
如伊景 山山 山山 山山 山山 山山 山山 山山 山山 山山
如伊景 山山 山山 山山 山山 山山 山山 山山 山山 山山

二

都の御領りたる由りてしるす人
うまき

りしるす人
ア
マ
カ
ハ
シ
ヨ
タ
キ
ハ
シ
ヨ
タ
キ
ハ
シ
ヨ
タ
キ
ハ

考

山下	キヨタキ	シマハラ	キヨタキ	ホシ山	セシタイ	キヨタキ	山下	キヨタキ
ハ	シ	ヨ	タ	キ	ハ	シ	ヨ	タ
ハ	シ	ヨ	タ	キ	ハ	シ	ヨ	タ
ハ	シ	ヨ	タ	キ	ハ	シ	ヨ	タ

山
西
本

田
伊
尾
尾
尾
尾

大言子種 地六三 劇人六三 柳松
島外 島人 存舟 古方 菅原 里持

考
考

考
考

久吉 地 全先 在 女 人 全 平 隆 為

考
考

考
考

考
考

考
考

京橋所町
湯や樹額
意旬合

修玄



此の湯は向く...
 湯の味は...
 湯の熱は...
 湯の香は...
 湯の色は...
 湯の味は...
 湯の熱は...
 湯の香は...
 湯の色は...

此の湯は向く...
 湯の味は...
 湯の熱は...
 湯の香は...
 湯の色は...

星夜庵評

天 以年地 榮樹人

秀 述

善慶 ちんおん

茶玉のうらみくらりてを席しう
誠をいばるや水札のあやちあや
ゆふのうらみ我方のあやちうら
とてきさるの涙まきくはかたし
重くおのうらみあはれ物ゆ
人のとておのうらみあはれ物ゆ
折せよとておのうらみあはれ物ゆ
七 甲

中 有
五 孝
里 述
小 述
折 述
以 述
甲 述
茶 述
茶 述
茶 述

赤葛橋評天 七九地 一箇人

七夕や舟中もさぬ歌 子
おのうらみのうらみくらりてを席しう
ゆふのうらみ我方のあやちうら
とてきさるの涙まきくはかたし
重くおのうらみあはれ物ゆ
人のとておのうらみあはれ物ゆ
折せよとておのうらみあはれ物ゆ
七 甲

信 人
京 述
甲 述
月 述
茶 述
茶 述
茶 述
茶 述

一箇高評天 治女地 一箇人

おのうらみのうらみくらりてを席しう
ゆふのうらみ我方のあやちうら
とてきさるの涙まきくはかたし
重くおのうらみあはれ物ゆ
人のとておのうらみあはれ物ゆ
折せよとておのうらみあはれ物ゆ
七 甲

治 人
京 述
甲 述
月 述
茶 述
茶 述
茶 述
茶 述

田

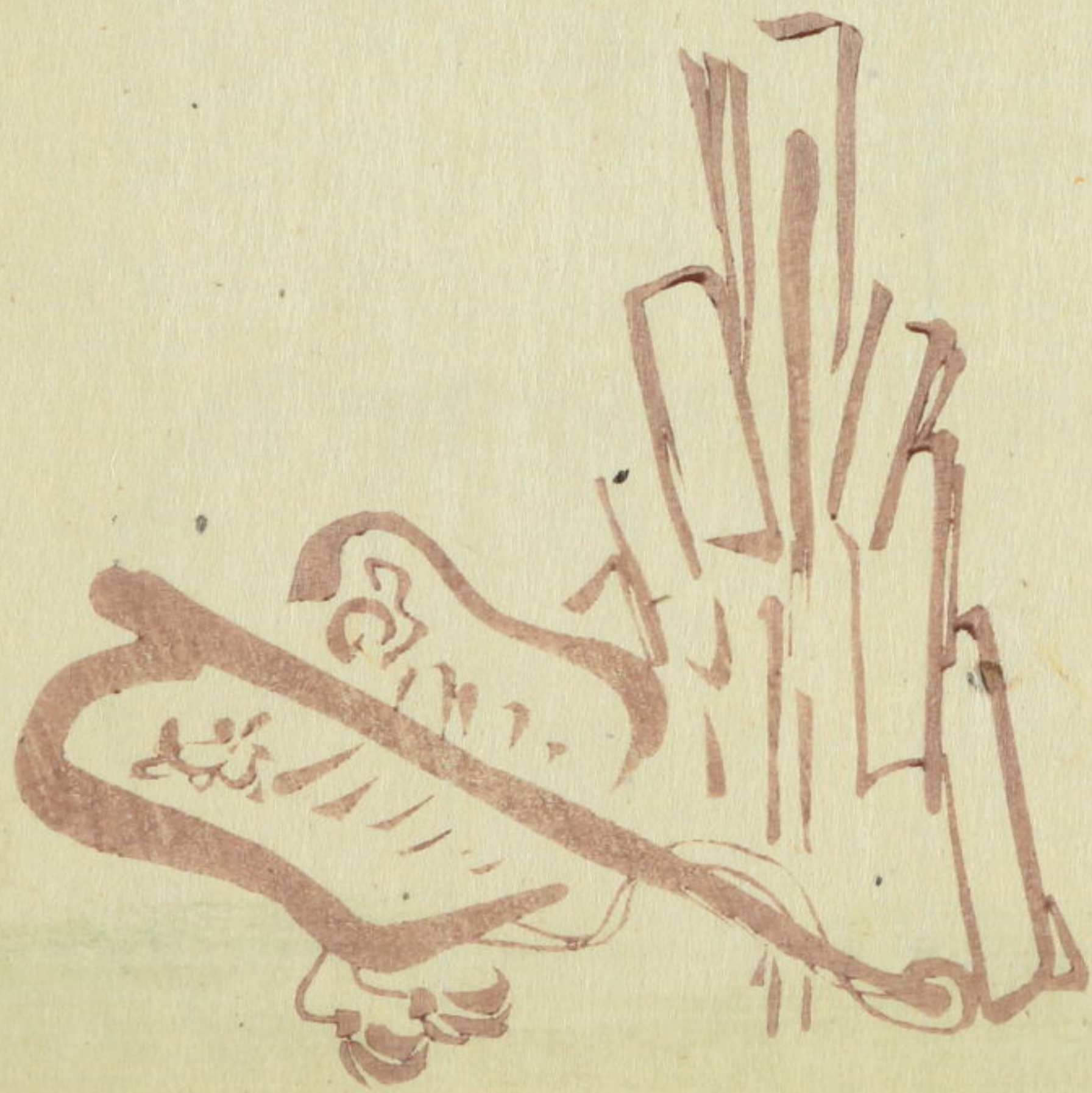
相

句

撲

拳

競



可幸洋天 鳩子地 志者人一友

六甲
おきし甲の砂をきくはのりくろく
はるくろくはるくろくはるくろく
おきし甲や名ひのりくろく

信古女
里古女
香山女

多くおきし甲の砂をきくはのりくろく
おきし甲の砂をきくはのりくろく
おきし甲の砂をきくはのりくろく
おきし甲の砂をきくはのりくろく

友子
兼什
甲砂
共招
東名

おきし甲の砂をきくはのりくろく
おきし甲の砂をきくはのりくろく
おきし甲の砂をきくはのりくろく
おきし甲の砂をきくはのりくろく

企
云云
云云
云云

おきし甲の砂をきくはのりくろく
おきし甲の砂をきくはのりくろく
おきし甲の砂をきくはのりくろく
おきし甲の砂をきくはのりくろく

可相表
可相表
可相表
可相表

水
因

深川

森下町

查りり

以水

初年
草焼



栽柳新表

子入... 柳... 栽柳新表... 天十七、終表

天十七、終表 地十五、末目 人十七、初生

嵩五 輕糖 甘岳 輕糖 樂堂 五 五 金丸

極の口を... 柳... 栽柳新表... 天十七、終表

一年三季園撰

天十七、終表 地十五、水車 人十七、輕糖

審五 子代丸 一 輕糖 輕糖 里人五 先考

百姓の籍... 柳... 栽柳新表... 天十七、終表

Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a medical or botanical record. The text is dense and covers most of the page area.

Printed Japanese text at the bottom of the page, organized into columns. It appears to be a list or index of items mentioned in the handwritten text above.

Handwritten characters and symbols on the right side of the printed text, possibly indicating specific details or measurements.

Handwritten characters and symbols on the right side of the printed text, possibly indicating specific details or measurements.

Handwritten characters and symbols on the right side of the printed text, possibly indicating specific details or measurements.

Handwritten characters and symbols on the right side of the printed text, possibly indicating specific details or measurements.

Handwritten characters and symbols on the right side of the printed text, possibly indicating specific details or measurements.

Handwritten characters and symbols on the right side of the printed text, possibly indicating specific details or measurements.

Handwritten characters and symbols on the right side of the printed text, possibly indicating specific details or measurements.

Handwritten characters and symbols on the right side of the printed text, possibly indicating specific details or measurements.

日之菴新出海

天十七

地味

人十六

菴

菴

菴

菴

菴

菴

菴

多州中... 菴新出海... 菴新出海... 菴新出海...

菴新出海... 菴新出海... 菴新出海... 菴新出海...

菴新出海... 菴新出海... 菴新出海...

菴新出海... 菴新出海... 菴新出海...

菴新出海... 菴新出海... 菴新出海... 菴新出海...

菴新出海... 菴新出海... 菴新出海...

菴新出海... 菴新出海... 菴新出海...

菴新出海... 菴新出海... 菴新出海... 菴新出海...

菴新出海... 菴新出海... 菴新出海...



四日市箱稻荷

永代額面四季亂敷二向合

企栢子連

苗子名取
一梅園

指

移させハ鳥のまきり 栢子花

赤の虎の紋

礼ららるる言ひくはあふれず毒丸
やんちりしあはれ共のあはれ
一ト風はれまて栢子花
必梅のあはれまて

ヨド
カンド
カンド
松花
栢子
枝水

空を吹く丸も若きあはれ丸
無きあはれ丸も若きあはれ丸
一トあはれ丸も若きあはれ丸
あはれ丸も若きあはれ丸

主 佐
栢子
栢子

厚きあはれ丸も若きあはれ丸

朱判
知見

あはれ丸も若きあはれ丸

兼取
未取

あはれ丸も若きあはれ丸

五判
名山

俗世より多きを子の教ふカ
 一子子の地よりぬる屋屋
 見候しぬれぬしそとせぬの上
 夕立の降るは日なれ月の色
 足るそ素水に流るは流るは
 休るは血ふらふは流るは流るは
 折るは折るは流るは流るは
 枝の葉子折るは流るは流るは
 波のけしきも無き流るは流るは
 風吹けしきも無き流るは流るは
 枝の葉子折るは流るは流るは
 月の子も折るは流るは流るは
 出先へも折るは流るは流るは
 帆柱も折るは流るは流るは
 米も折るは流るは流るは
 雲も折るは流るは流るは
 一入りも折るは流るは流るは
 禁たしも折るは流るは流るは
 節季の折るは流るは流るは
 目も折るは流るは流るは
 傍も折るは流るは流るは

母カメハ
 紫井下
 都
 五
 一
 子州戸
 柳枝
 夢玉
 夢門
 葉種
 木玉
 水玉
 桂宮
 米頂
 松頂

舟も折るは流るは流るは
 藤も折るは流るは流るは
 第目の折るは流るは流るは
 本の方も折るは流るは流るは
 行房も折るは流るは流るは
 引候も折るは流るは流るは
 壺の口も折るは流るは流るは
 下も折るは流るは流るは
 下も折るは流るは流るは
 下も折るは流るは流るは
 下も折るは流るは流るは

舟も折るは流るは流るは
 藤も折るは流るは流るは
 第目の折るは流るは流るは
 本の方も折るは流るは流るは
 行房も折るは流るは流るは
 引候も折るは流るは流るは
 壺の口も折るは流るは流るは
 下も折るは流るは流るは
 下も折るは流るは流るは
 下も折るは流るは流るは
 下も折るは流るは流るは

舟も折るは流るは流るは
 藤も折るは流るは流るは
 第目の折るは流るは流るは
 本の方も折るは流るは流るは
 行房も折るは流るは流るは
 引候も折るは流るは流るは
 壺の口も折るは流るは流るは
 下も折るは流るは流るは
 下も折るは流るは流るは
 下も折るは流るは流るは
 下も折るは流るは流るは

舟も折るは流るは流るは
 藤も折るは流るは流るは
 第目の折るは流るは流るは
 本の方も折るは流るは流るは
 行房も折るは流るは流るは
 引候も折るは流るは流るは
 壺の口も折るは流るは流るは
 下も折るは流るは流るは
 下も折るは流るは流るは
 下も折るは流るは流るは
 下も折るは流るは流るは

約後之撰

位より隣るも二日奈
横上の鉄筋也わや板の中
子蕨や松の葉を巻くより
水舟ゆかりの葉を巻くより
晴るる葉の影のりもよき
わらわの影のりもよき
存るる葉の影のりもよき
啼止るる葉の影のりもよき

天世の秋人 地三名譽 人三

審舟 豊一 豊進 立 安丸 手板
廿三 廿三 廿三 廿三 廿三 廿三

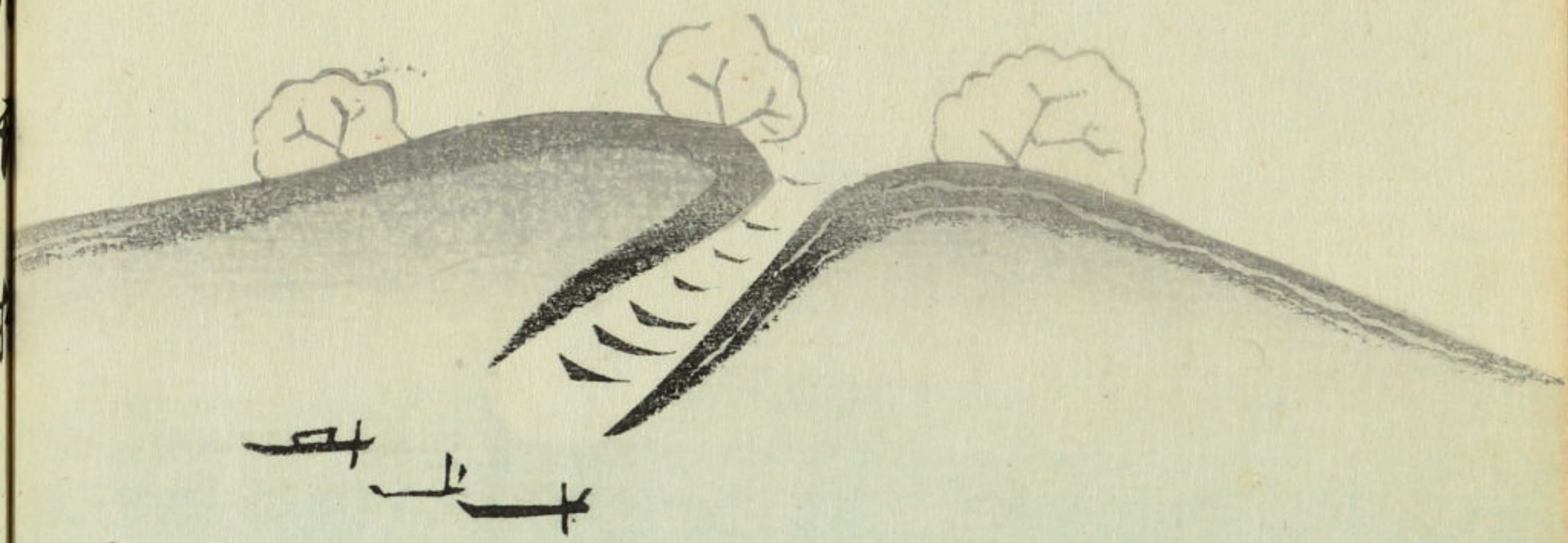
さうさうの影のりもよき
咲くよの影のりもよき
梅咲くよの影のりもよき
光福の影のりもよき
咲くよの影のりもよき
咲くよの影のりもよき
咲くよの影のりもよき
咲くよの影のりもよき

栽柳お撰

天十々 地十々 柳川舎 人三 友未

審舟 豊一 豊進 立 安丸 手板
廿三 廿三 廿三 廿三 廿三 廿三

あまの影のりもよき
あまの影のりもよき
あまの影のりもよき
あまの影のりもよき
あまの影のりもよき
あまの影のりもよき
あまの影のりもよき
あまの影のりもよき



天 地 人 吾山

番外 帛二朗 水雨 却生 涉路 芝原
 当丸 琴川女 久我 毒水 有榮

何所より来たるを... 手を取つて...
 夢中 尾の巻り... あり...
 眺まうて青柳... 一ハハ兄持
 柳赤し... 播く... 田舎さ
 子の背... 山... 笑ひ...
 空け... 味... む...
 梅提... 人... 色けり
 急... 山...
 味... 山...
 け... 山...
 吾... 山...
 筏... 山...
 半... 山...
 大... 山...
 池... 山...

茶もろり 鞘もろり 花や近代の葉
おの意のけり けり けり けり
お鷹の猫のつら けり けり けり
引のけり けり けり けり
附のけり けり けり けり
花林堂 桃水 評

花林堂 桃水 評

天 鳥 曉 地 桃 車

人 孫 橋

黄 外 近 経 吾 山 松 舟 有 獎 其 月

秀 色

新町と浮世の海とありけり
多し 藤の葉のけり けり けり
似城の葉のけり けり けり
塩のけり けり けり けり
ある年 あり けり けり
細のけり あり けり けり
ふる戸のけり あり けり けり
仙のけり あり けり けり
出代のけり あり けり けり
高松のけり あり けり けり
磨のけり あり けり けり
神のけり あり けり けり
文島堂 高丸 評

天 釣 雲 地 雲 山 人 高 山

秀 色

よき里の入口 あり けり けり
梅の葉のけり あり けり けり
後打の葉のけり あり けり けり
織のけり あり けり けり
花のけり あり けり けり
祝の葉のけり あり けり けり
習 静 居 釣 雲 評

天 推 翁 地 全 人 弓 半

番 亦 弓 半 雲 山 南 木 字 山 花 疎

秀色

松の影も鬼の影も山に移り
山吹の影も鬼の影も山に
松の影も鬼の影も山に
松の影も鬼の影も山に
松の影も鬼の影も山に
松の影も鬼の影も山に
松の影も鬼の影も山に
松の影も鬼の影も山に
松の影も鬼の影も山に
松の影も鬼の影も山に

松の影も鬼の影も山に
松の影も鬼の影も山に
松の影も鬼の影も山に
松の影も鬼の影も山に
松の影も鬼の影も山に
松の影も鬼の影も山に
松の影も鬼の影も山に
松の影も鬼の影も山に
松の影も鬼の影も山に
松の影も鬼の影も山に

二葉高臨評

天高山地鳥曉人楚流

秀色

何の影も鬼の影も山に
何の影も鬼の影も山に
何の影も鬼の影も山に
何の影も鬼の影も山に
何の影も鬼の影も山に
何の影も鬼の影も山に
何の影も鬼の影も山に
何の影も鬼の影も山に
何の影も鬼の影も山に
何の影も鬼の影も山に

何の影も鬼の影も山に
何の影も鬼の影も山に
何の影も鬼の影も山に
何の影も鬼の影も山に
何の影も鬼の影も山に
何の影も鬼の影も山に
何の影も鬼の影も山に
何の影も鬼の影も山に
何の影も鬼の影も山に
何の影も鬼の影も山に

春工堂桃古源

天席二朗地桃作人桃車

番外 桃の 柳月 桃舌 兼持 揮月 勇好

秀色

子のひまわりは清く
子の子は清く
子の子は清く
子の子は清く
子の子は清く
子の子は清く
子の子は清く
子の子は清く
子の子は清く
子の子は清く

子のひまわりは清く
子の子は清く
子の子は清く
子の子は清く
子の子は清く
子の子は清く
子の子は清く
子の子は清く
子の子は清く
子の子は清く

括那のり波の中へ進けしぬ
 花よ入く候るを知らずや事乃の
 出をせうて多波の多うり妻れ月
 鑑よりきく一羽の幸や事乃の介
 冥神とて踏りり利を事乃をさ
 、 、 、

仏タイ

柳 柳 柳 柳
 車 中 月

當日兼歌

蘭馨舎東英評

天 秋 喪 地 久 義

人 掃 月

初もやか波の水汲子現
 善かろり日波結くく一の橋
 幾くりりと愁く愁くはくくか

秋 喪
 久 義
 言 心

氷 雨 新 陶 評

天 か 家 女 地 秋 喪

人 深 悟

永るれい水の若きすりりかぬ
 多中ものよやり承をよ芥の幸
 柳 柳 柳 柳

秋 喪
 人 深 悟

辰 井 源 運 産

天 多 雨 地 泊 雪

人 久 義

晴るる多雨候くくうりり
 替りくくくくくくくくくく
 昔者や机よりいづく編綴
 妻もれ 実より別くく都
 其新 流む豊川 長くく乙多
 氣晴くくくくくくくくくく
 弥生夜 宿州 舟の船行
 船のを二二三路く流り け
 母の客船の客や船の客
 継の名も世帯志くく母の船
 姉くけ船くくくくくく
 情のつねを望人のかくくく
 水も月ほんやり妻の澄きり
 梅くくや文字はひ出すか
 咲もよのくくくくくく

久 義
 柳 柳 柳 柳
 久 義
 久 義
 南 東
 久 義

集田山

集結

瑞

杖

待交

白
沙
を

心之標色



集田山 瑞杖待交
白沙を
心之標色

雪よりの

また〜
杜の可飛

雪よりの 瑞杖待交
白沙を
心之標色

花判去

かき子
月
歌
東
相
陶
山

判去

氷
丸
岩
古
標
物
外

笠葺 巻

天月森地者丸人留丸

十中

取中の一木ハたの〜色様
有〜色様のの〜を信頼の
葉折れや自の〜の〜
研〜
杜〜

東石
者丸
東子
自丸

兼葺 巻

天者丸地者丸人留丸

十中

取中の一木ハたの〜色様
有〜色様のの〜を信頼の
葉折れや自の〜の〜
研〜
杜〜

五滝
自丸
者丸
全丸

天者丸地者丸人留丸

天者丸地者丸人留丸

十中

取中の一木ハたの〜色様
有〜色様のの〜を信頼の
葉折れや自の〜の〜
研〜
杜〜

兼葺
東子
者丸
全丸

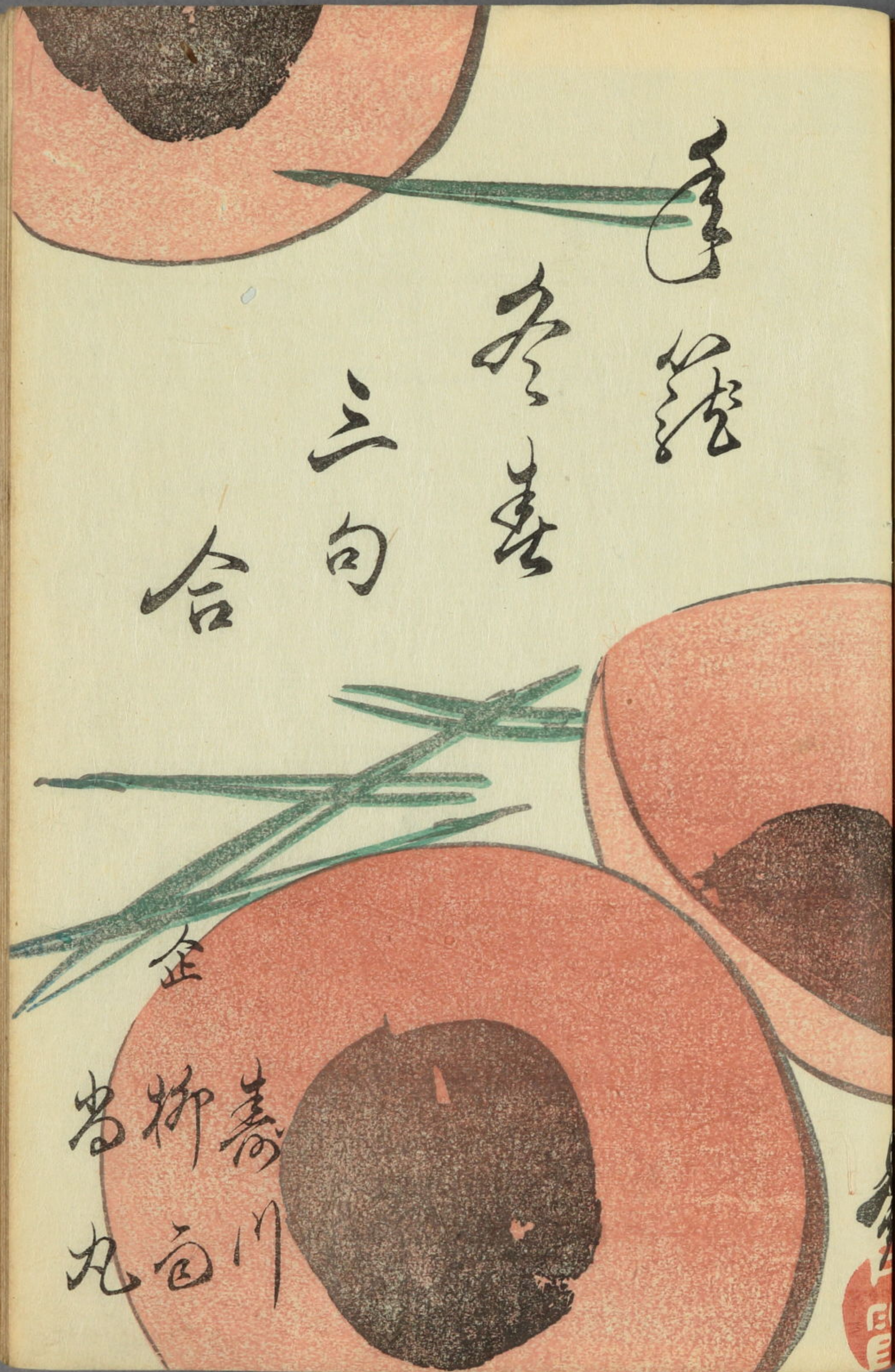
天月森地者丸人留丸

天月森地者丸人留丸

十中

取中の一木ハたの〜色様
有〜色様のの〜を信頼の
葉折れや自の〜の〜
研〜
杜〜

東石
自丸
全丸
松丸



年籠

冬春

三句

合

企

壽川
柳
丸

いけはかりまゝの友や妻の句
さくらのゆきまゝの句
 数ある花は春の句
いけはかりまゝの句
 野の物の子をまゝと妻の句
金中
 花幅の花はまゝと妻の句
まゝと妻
 一すゝまはまゝと妻の句
中山
 妻のまゝと妻の句
妻のまゝと妻
 花のまゝと妻の句
玉村
 花のまゝと妻の句
花のまゝと妻
 花のまゝと妻の句
花のまゝと妻
 花のまゝと妻の句
花のまゝと妻

企
 妻子
 丸
 源月
 春月
 一州
 柳白
 壽川
 笠鹿

立之評合志

天之山 松壽 地主柳南 人主魚心

番舟十客 祝山 喜海 一哉 其丸 每新 吾子 子

○丸 之客 軍勇 折除 綾丸 子之

松壽新撰 繪魚心

及海の形

静さ色人の海を備ゆ 繪 磯町
白魚の舟を足くも 松子 尾野
木もじやうの清き水も 白 尾野
葉のちやも 水も 水も 一 柳
さやうも 水も 水も 水も
産つ子 柳 柳 柳 柳
列上る 水も 水も 水も 水も
人あつた 柳 柳 柳 柳
橋も 柳 柳 柳 柳
田の 柳 柳 柳 柳
波の 柳 柳 柳 柳
白魚の 柳 柳 柳 柳
底の 柳 柳 柳 柳
世の 柳 柳 柳 柳
雲の 柳 柳 柳 柳
葉の 柳 柳 柳 柳

松川下

柳子

魚心

田毎園撰 繪柳南

美の世七印

静さ色人の海を備ゆ 繪 磯町
白魚の舟を足くも 松子 尾野
木もじやうの清き水も 白 尾野
葉のちやも 水も 水も 一 柳
さやうも 水も 水も 水も
産つ子 柳 柳 柳 柳
列上る 水も 水も 水も 水も
人あつた 柳 柳 柳 柳
橋も 柳 柳 柳 柳
田の 柳 柳 柳 柳
波の 柳 柳 柳 柳
白魚の 柳 柳 柳 柳
底の 柳 柳 柳 柳
世の 柳 柳 柳 柳
雲の 柳 柳 柳 柳
葉の 柳 柳 柳 柳

笠井撰 繪柳南

再考の印

静さ色人の海を備ゆ 繪 磯町
白魚の舟を足くも 松子 尾野
木もじやうの清き水も 白 尾野
葉のちやも 水も 水も 一 柳
さやうも 水も 水も 水も
産つ子 柳 柳 柳 柳
列上る 水も 水も 水も 水も
人あつた 柳 柳 柳 柳
橋も 柳 柳 柳 柳
田の 柳 柳 柳 柳
波の 柳 柳 柳 柳
白魚の 柳 柳 柳 柳
底の 柳 柳 柳 柳
世の 柳 柳 柳 柳
雲の 柳 柳 柳 柳
葉の 柳 柳 柳 柳

且浦

魚心

此の人... 舟... 糖... 糖... 糖... 糖...
 舟... 糖... 糖... 糖... 糖... 糖... 糖... 糖...
 舟... 糖... 糖... 糖... 糖... 糖... 糖... 糖...

和来舎評

天一哉 地五嶽 人初音

五宮 眩壽 菓子 糖高 祝山 如也

引... 舟... 舟... 舟... 舟... 舟... 舟... 舟...
 舟... 舟... 舟... 舟... 舟... 舟... 舟... 舟...
 舟... 舟... 舟... 舟... 舟... 舟... 舟... 舟...

和完舎評

天急心 地一哉 人菓子

五宮 吉割 菓子 柳白 月〇 眩壽

舟... 舟... 舟... 舟... 舟... 舟... 舟... 舟...
 舟... 舟... 舟... 舟... 舟... 舟... 舟... 舟...
 舟... 舟... 舟... 舟... 舟... 舟... 舟... 舟...

舟... 舟... 舟... 舟... 舟... 舟... 舟... 舟...
 舟... 舟... 舟... 舟... 舟... 舟... 舟... 舟...
 舟... 舟... 舟... 舟... 舟... 舟... 舟... 舟...

和交舎評

天粒坡 地成山 人菓子

五宮 一哉 眩壽 如差 菓子 菓子

舟... 舟... 舟... 舟... 舟... 舟... 舟... 舟...
 舟... 舟... 舟... 舟... 舟... 舟... 舟... 舟...
 舟... 舟... 舟... 舟... 舟... 舟... 舟... 舟...

和香舎評

天 眩壽 地一哉 人成山

舟... 舟... 舟... 舟... 舟... 舟... 舟... 舟...
 舟... 舟... 舟... 舟... 舟... 舟... 舟... 舟...
 舟... 舟... 舟... 舟... 舟... 舟... 舟... 舟...

五宮 壽川 橋 橋 橋 橋 橋 橋 橋 橋 橋 橋

古江之川 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

折 折 折 折 折 折 折 折 折 折

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

壽川

里 山

一 我

壽川

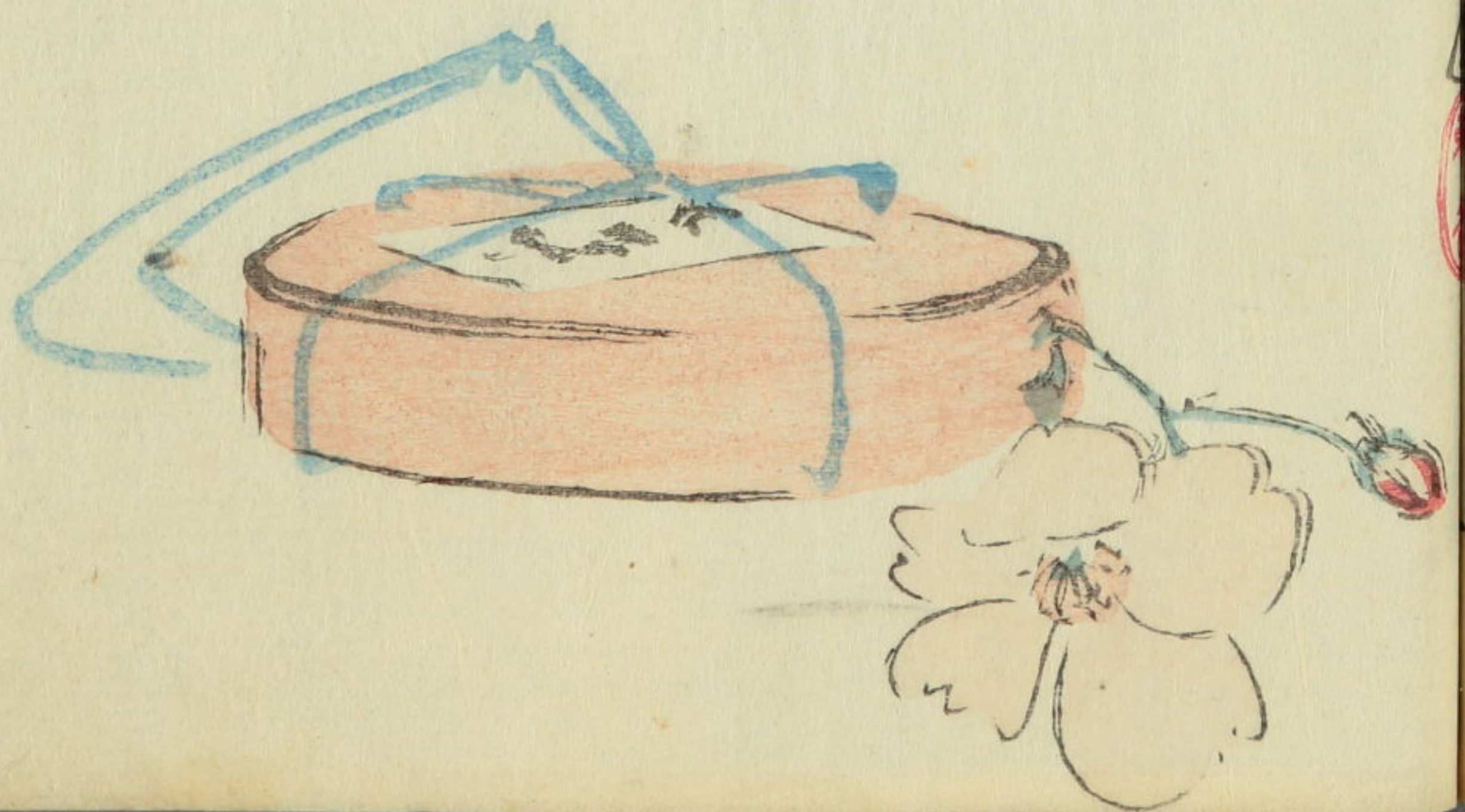
舟 舟

舟 舟

舟 舟

舟 舟

舟 舟



柳の亭撰

十印

ハ梅崎子若の癖く板りのれ
ハ別とひらひと居居て水鏡の南
面奥き夕日さけり葉の
さる秋のうらみの敷や春の
さる子春のあきさ秋の中
のり
十時
六丁

意案
秋園
和玉
富の葉
松山
豊曉
柳系

再巻南の巻

或時庵撰

美色

魚のり後目のやうな葉の子
水打のりりの産を極め
納涼香釣りのけさる柳の
夏をそよ風も薫りし
家客を人々をうらむる
山寺の岩をうらむる

巨面
松岩
六五
甲江
山立
十五
一六

再巻南の巻
四代
秋の亭撰

美色

屋のあめの舌を葉より
さる水や岩の上をさる
さる水や岩の上をさる
さる水や岩の上をさる
さる水や岩の上をさる
さる水や岩の上をさる

反面や流れてやうな所
市井のりららららららら
打水やんがよき産り

ほ見

五
一
五
一
五
一
五
一
五
一

坂形子垣結の家や葉の
中く子世の宝をさる
柳植る世と舞のつく
世の井子ほのりれ
後納りの日毛
代友の籠へ一と節

子
山
園
五
一
五
一
五
一

本居の昔新ありやうのむ
 けくとも源もきるやや田の作
 菊子笠笠もきく備中やりのむ
 秋をるもきく備中やりのむ
 上ましくも備中やりのむ
 松子森とくも備中やりのむ
 冬くも備中やりのむ
 春のまきも備中やりのむ
 土味とりのむ備中やりのむ
 信心とりのむ備中やりのむ
 春安さく備中やりのむ
 梅子の只備中やりのむ
 まきとりのむ備中やりのむ
 月と風新中軒場の釣り茶
 吟もきくも備中やりのむ
 古心の寝も備中やりのむ
 宵裁一の備中やりのむ
 白くれの備中やりのむ
 笠餅やむの備中やりのむ
 青梅の向の備中やりのむ
 四阿屋子植木造りの備中やりのむ
 庭中守信の備中やりのむ

僅
 豆 桑 五 吳 園 伏 山 野 麦 十 山 羅 麦 子 耕 柳 甲 柳 堂 六
 向 高 茶 鷹 雪 云 枝 露 成 舎 月 六 山 江 水 里 高 高 長 高 菜

夏は月海を 子代産

山く免子出くりたる

添くのと思ふ 附書 是書

昔も指の紋

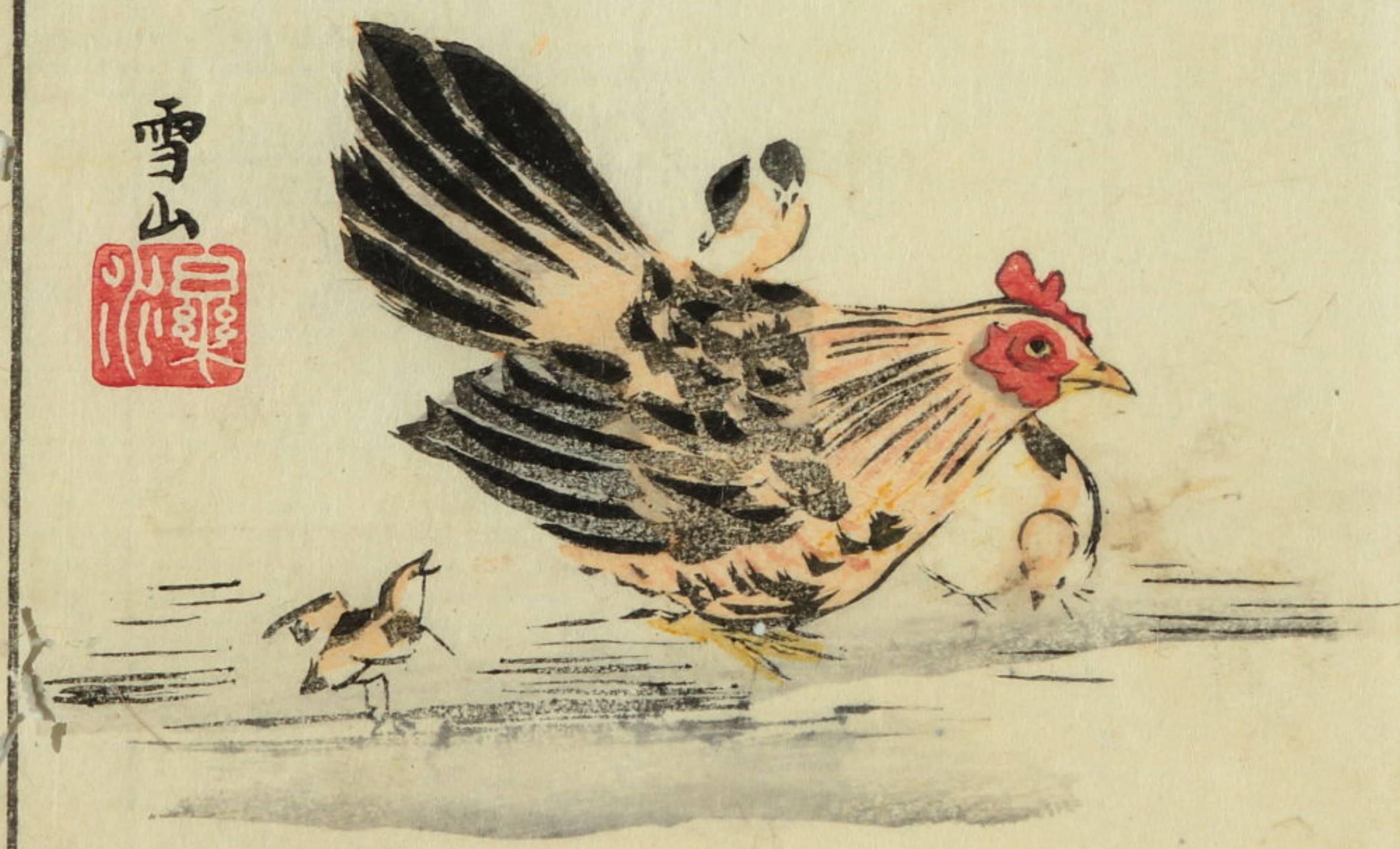
仲松沖糸 柏堂

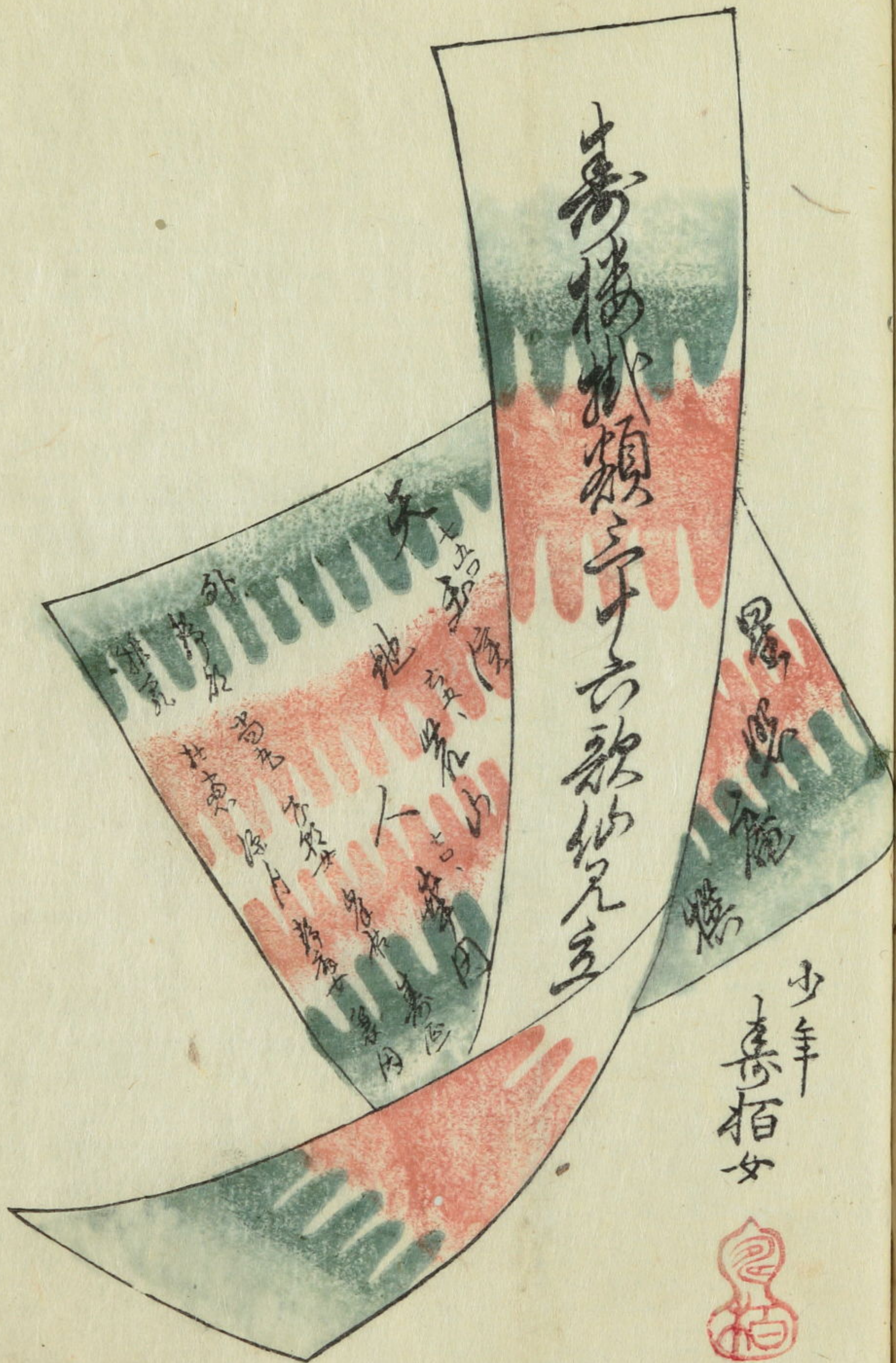
風の巻りく

交まろう 附書 美馬

日始思くやま
まはくくれ

戊申画 たり





成時彦栢

天田五六嵐

番外

地田日鳥沼

元樂

人朱六吉約吉

玉面家栢

天田五新枝

番外

地立三巴

人五保樂

折々彦栢

天田口和玉

番外

地田口芳里

人立作本吹

成時彦栢

天田〇朱六伏枝

地〇朱六和志

人立作五磨

不取彦栢

天田五甲長

地六五磨

人田口藤代

子代彦 鶴彦 巧雄
おのゝ十五点より十四、時より

古木 池原 不洛
おのゝ十五点より十一、時より

三巴 麻堀 藤系
おのゝ十五点より十一、時より

少年
壽栢女
[Red Seal]

禮制て書信の
新刊の蓮下
アサリ能士
星團会共友

女は是れを初め
新刊力布

アサリ
照りての鳥也

穂雨の中へあふり

車は田の初夜

アサリ
花の世

山はま〜〜落るる〜〜は時を

アサリ
新系



何者や知るも

ぬ〜〜ぬ水の女

玲也
和笑

母君か初〜〜は時を

あはれ〜〜初〜〜は

アサリ
鳥也

若くは初〜〜は

白の〜〜は

田抄〜〜は

日本を任
信井〜〜は

紫の〜〜は

西の〜〜は

五〜〜は
一物



新物よめ好
 結月火生桶
 吉造
 松平慶喜正

皆まてゝあつた
 さあ〜〜〜

ツキレ
 持花

此の中屋
 志〜〜年一下

幸徳系系
 井川

台のり中 終り多き
 里好〜〜仕度

お松下
 雅高



水やよ月日のたい
 船〜〜〜戸生〜〜〜

杉のり
 隆栄正
 隆茂

多目好終り
 きり終り〜〜〜

吉造
 月夜

年々終れ
 志〜〜〜

吉造
 松平慶喜正

月〜〜〜
 志〜〜〜

松平



下巻 井村
 其女
 申す

大原中村の身
 つつとをうのり

早の志
 若口庵半因

條
 中村の身

きつと物持

松川
 深月

白河の身
 夕と夜と

早の志
 半因



月影の備
 新法新法
 去是
 照法会新法女

赤中

早の志
 若口庵半因

早の志
 若口庵半因

晴色

遠山
 二月

早の志
 若口庵半因

つとをうのり
 好の身

早の志
 若口庵半因



舟の上
舟の上の
舟の上の
舟の上の

酒の味
酒の味
酒の味
酒の味

舟の味
舟の味
舟の味
舟の味

舟の味

舟の味
舟の味
舟の味
舟の味

舟の味



舟の味
舟の味
舟の味
舟の味

舟の味
舟の味
舟の味
舟の味

舟の味

舟の味
舟の味
舟の味
舟の味

舟の味

舟の味
舟の味
舟の味
舟の味

舟の味



本意は... 母の... 替... 城... 秋の... 世... 夕山... 福... 人... あり... 色

六印... 歌

夢... 鶴... 何... 善... 新... 茸... 月... 望

初... 意

集... 金... 全... 川... 小... 文... 集... 金... 全... 川... 小... 文... 集... 金... 全... 川... 小... 文...

月... 初... 秋... 世... 夕山... 福... 人... あり... 色

勅

難... 丸... 足... 素...

判... 者... 心

山... 曉... 山... 曉

闲月度浮

天 地 人
棋 局 自 舒

舟

西 村 石 松 寿 王 弄 系 集 玉 弄 系

合歌度保

天 地 人
秋 月 自 要 舟

番

柳 系 一 英 芳 籍 舟 松 系 舟 松

自負千七百餘年

初心之建号所披度中外变天地速之於改中



